

【ポスター発表（10）】

団体名：特定非営利活動法人可児市国際交流協会

多文化共生が日常化された地域社会の実現を目指して・・・

■可児市の位置



可児市ホームページより↑

|         |                |
|---------|----------------|
| 可児市の人口  | 100,893 人      |
| 外国人居住者数 | 5,350 人 (5.3%) |
| フィリピン   | 2,303 人        |
| ブラジル    | 2,161 人        |
| 中国      | 384 人          |



情報収集・発信

HP <http://www.wctk.ne.jp/~frevia>

Facebook <http://www.facebook.com/Freviakani>

可児市多文化共生センターフレビア管理運營業務

いいね！してね。

外国人相談窓口

日常相談

9:00～18:00

ポルトガル語

タガログ、英語対応

無料法律相談会

生活相談会



日本語支援

日曜日日本語教室：毎週日曜日 13:30～15:30

土曜日日本語教室：毎週土曜日 19:00～20:30

日本語多様化：日曜日 10:00～12:00

交流の場

日本語作文コンテスト

多文化共生フェスティバル in 可児

FREVIA CAFE



多文化共生にかかわる事業

日本語指導支援活動

- ・日本語支援者養成講座
- ・企業内日本語教室
- ・可児市多文化人材育成推進事業



国際理解・語学学習活動

- ・語学学習活動 5 言語
- ・海外交流・異文化理解
- ・語学翻訳・通訳活動

多文化共生支援活動

- ・高校進学支援「さつき教室」
- ・就学支援「ゆめ教室」
- ・中学卒業程度認定試験対策「かがやき教室」
- ・子どもの語学教室「サシペレレ」
- ・補習教室「きぼう教室」
- ・就学前事前準備「ひよこ教室」

その他

各種団体や  
学校との連携

情報交流・発信活動

- ・多言語情報誌の発行
- ・メールマガジンの発行
- ・ボランティアブログ

会員総数：437

正会員：257 賛助：180

事業実施概要

|         |   |                                   |                               |   |
|---------|---|-----------------------------------|-------------------------------|---|
| 事業名称    | 可児市多文化人材育成推進事業  |                                   |                               |   |
| 地域の課題   | 可児市は、人口の約 5.2%の外国人が居住し、子どもの教育や将来のために定住化しようという傾向にあるし、日本生まれ、日本育ちの子どもたちも増えている。今後社会の構成員として育成していくために、日本語指導を含めた地域社会で安心して暮らせるための体制づくりが必要となってきた。昨年は、市役所を始め、商工会議所、企業、学校関係者との関係づくりを行ったが、今後は体制づくりが必要である。 |                                   |                               |   |
| 事業の目的   | 居住年数が長くなってきている外国人が、安定した職業に就け、余暇を楽しむことが、生活者としての外国人と捉え、学習者のみならず、指導者側も取組を通して、共生するための気付きや工夫など、人材育成という観点から成長を期待する。   |                                   |                               |   |
| 事業内容    | 取組1   |                                   | 取組2                           |   |
|         | 名称  | 多文化人材育成推進委員会                      | 名称                            | 職場に必要な日本語                                   |
|         | 内容  | 地域や企業が必要とする日本語及び求められる人材の検証        | 内容                            | 上級レベルの語彙を増やし、敬語など対人関係のコミュニケーションを学ぶ          |
|         | 対象  | 地域住民、就職を目指す外国人                    | 対象                            | 日本語を勉強したい上級レベルの外国人                          |
|         | 時間  | 推進会議1時間×3回 1.75x1回<br>(全 7.75 時間) | 時間                            | 2 時間× 11 回 1 時間 x1 回<br>(全 23 時間)           |
|         | 人数  | 51 人 (うち外国人 0 人)                  | 人数                            | 24 人(うち外国人 24 人)                            |
|         | 取組3   |                                   | 取組4                           |   |
|         | 名称  | 子育ての日本語(親子で地域について学ぼう)             | 名称                            | フィリピンコミュニティによる野菜づくり                         |
|         | 内容  | 地域で子育てをする生活者として、家族みんなで地域について学ぶ。   | 内容                            | 地域の行事等への参加と野菜づくりを通じて地域の人たちと交流する、そのための日本語を学ぶ |
|         | 対象  | 育児に係わる外国人及び地域住民                   | 対象                            | 野菜づくりに興味ある外国人、日本人                           |
|         | 時間  | 1 回 4 時間 x3 回 全 12 時間             | 時間                            | 全 12 回 28 時間                                |
|         | 人数  | 48 人(うち外国人 46 人)                  | 人数                            | 76 人(うち外国人 67 人)                            |
|         | 取組5   |                                   | 取組6                           |   |
|         | 名称  | 防災ワークショップご近所つきあいのマナー              | 名称                            | シンポジウム(参加型円卓会議)                             |
| 内容      | 演劇手法を生かした防災とご近所つきあいのマナーと日本語   | 内容                                | 本事業の成果、問題点、課題の議論と日本語教育体制整備の検証 |   |
| 対象      | 地域住民(外国人、日本人)   | 対象                                | 事業関係者及び地域住民                   |   |
| 時間      | 2 時間x5 回 5 回で 10.5 時間   | 時間                                | 2.5 時間                        |   |
| 人数      | 114 人(うち外国人 90 人)   | 人数                                | 57 人(うち外国人 17 人)              |   |
| 連携体制    | 行政、自治会、商工会議所、各種団体、学校との連携体制へと関係を進めることができ、実践においても地域コミュニティ団体との連携と、社会参加を進めることができた。  |                                   |                               |   |
| 成果と課題   | 日本語教室での日本語学習は、その教室内にとどまることが多く、日本語習得の目標が見えづらかったが、協会すべての教室が「生活者として」の日本語習得の目標や意識を掲げられるようになった。ただし、日本人目線の教室ではなく、外国人の運営委員の検討と、外国人のサポートが必要。  |                                   |                               |   |
| 発表者から一言 | 外国人コミュニティや日本語学習者と一緒に取り組むことで、地域の人たちに気づきがあり、受け入れ体制を取るためにどのような日本語教室が必要かを考えることができました！   |                                   |                               |   |